

ON THE KEYBOARD

By Sanjeev Sinha

No. 9



サンジーヴ・シンハ

1973年インド・ラジャスターン州生まれ。インド工科大学で物理学修士課程と金融の修士課程を修了。人工知能研究のため1996年来日。証券会社の数社に勤務後、現在、プライスウォーターハウスクーパース株式会社ディレクターとして、日本とインドのビジネスの橋渡しに従事。英・日・ヒンディー語を駆使して、様々な異文化交流に尽力している。主な著書に「すごいインドーなぜグローバル人材が輩出するのか」(新潮新書)がある。

For Personal Use

A Japanese trait: Helping those who can't help themselves

A couple of years ago, I hurt myself while playing soccer. Unable to walk and in severe pain, I called an ambulance. It arrived in less than five minutes, and after a quick check of my condition, I was taken to a hospital nearby.

A doctor immediately attended me and lent me a wheelchair for a few weeks until I recovered. After paying my medical bills, I realized that no one had asked me if I had the financial capacity to pay; instead, I was given

unconditional attention and care.

As I left the hospital, a taxi driver immediately came forward and helped me get in and folded my wheelchair to put it in the trunk. I was impressed by both the service and kindness.

It was not until I was injured that I realized that elevators in my apartment are wheelchair-accessible and have braille floor buttons. The doorways are wide enough and stay open long enough to allow persons using wheelchairs to pass through

easily.

Every time I went out in the wheelchair, I discovered things designed for the physically disabled: gentle slopes at the entrance of hotels, yellow raised sections of sidewalks for the blind and so-called "non-step" low-floor buses.

Furthermore, train station personnel have portable ramps to help passengers in wheelchairs get on and off trains.

Japan is always kind to the weaker among us. Now that I am

back on my feet and able to play soccer again, I can see this country from a different perspective.



紙面から音声

このコーナーは、スマホやタブレットで英文音声を読むことができます。無料アプリ「朝日コネクト」をインストール。

起動したら、日付選択で発行日(11月29日)に合わせ、英文の先頭にかざしてください。ダブルタップで全画面表示。詳細は <http://t.asahi.com/connect> へ。

App Store
からダウンロードGoogle play
で手に入れよう

朝日ウィークリーのウェブサイト

(http://www.asahi.com/english/weekly)

でも、音声ファイルを公開しています。

trait

(見出しから) 特性、特徴

attend(ed)

～の世話をした、～

を看護した

wheelchair

車椅子。後出の wheelchair-accessible は、車椅子で利用で

きる、という意味

medical bill(s)

医療費

capacity

能力

unconditional

無条件の、無制限の

(be) impressed by

～に感心した、強い印象を受けた

It...until

～して初めて that 以下になった

braille

点字

portable ramp(s)

携帯型スロープ

(be) back...feet

再び元気になる

対訳 介助を進んで行うのは、日本人の特徴です

数年前、サッカーをしている時にけがをしました。歩くこともできず、痛みも激しかったので救急車を呼びました。救急車は5分も経たないうちに到着。私は症状をさっとチェックされた後、近くの病院に運ばれました。

医師がすぐにケアをしてくれて、回復するまでの数週間、車椅子を貸してくれました。医療費を払った後になってから、私に支払える財力があるかどうか、誰も聞いてこなかったことに気づきました。それどころか、無条件で配慮や世話をしてもらったのです。

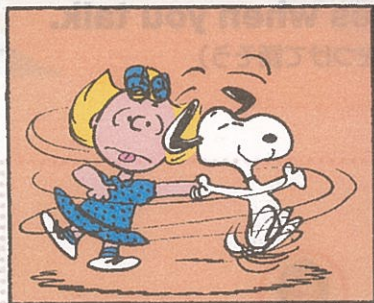
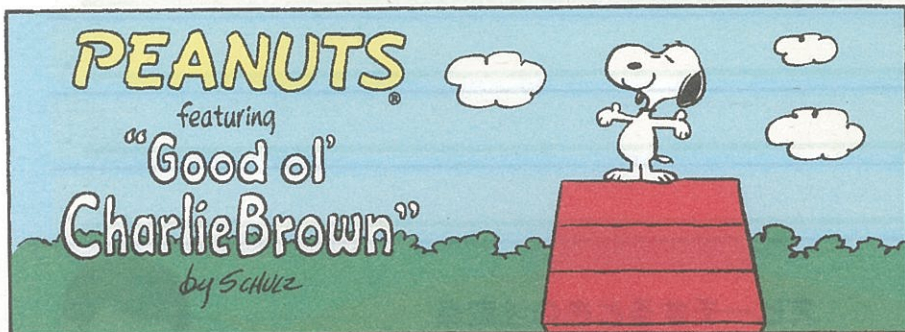
病院から出ると、タクシーの運転手さんがすぐに進み出て、乗車するのを助けてくれ、トランクに入れるために車椅子を畳んでくれました。私はその接客と思いやりの両方に、感銘を受けました。

けがをして初めて、自分の住んでいるマンションのエレベーターが車椅子対応であることや、階数の点字表示があることに気づきました。エレベーターの出入り口は、車椅子の人が楽に通れるように十分広く、長く開いています。

車椅子で出かけるたびに、身体障害者用にデザインされたものを発見しました。それは、ホテルの入り口の緩やかなスロープや、視覚障害者用の歩道上の黄色い突起したブロック、そしていわゆる「ノンステップ」低床バスなどです。

さらに、駅員たちは車椅子の乗客の乗り降りを助ける、携帯型スロープを持っています。

日本は、いつだって弱い者に親切です。けがから回復してサッカーができるようになった今、私はこの国を違う視点から見ることができます。(訳 井手和子)



気分は最高♪

[左コマから右へ]

1 ...

2 ...

3 ...

4 ...

5 ...

6 ...

7 ブチュッ!

8 ...

9 (ノリノリの気分なんだ!)

10 ...

(訳:タ)